



HONJO WASEDA RESEARCH PARK FOUNDATION
財団法人 本庄国際リサーチパーク研究推進機構

Annual Report 2005

財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構は、2002年5月17日に早稲田大学・本庄キャンパス内に設立されました。以来、すでに5年目を迎えた事業活動を、同大学および周辺地域との連携をさらに深める中、鋭意進めつつあるところです。

かねてより同キャンパスでは、「産・学・公・地域」の連携により地域に開かれた新たな教育・研究拠点の形成を目指す「早稲田リサーチパーク」の整備が進められてきました。本財団では、このリサーチパークを中心とした次世代型地域づくりのモデル都市構築に向け、「地域と大学」双方の新しい成功モデルを一つ一つ創りあげていくための活動を幅広く展開してまいりました。

特に2005年度からは、早稲田大学の大学院理工学研究科に新設された環境・エネルギー専攻が本庄キャンパスでの活動を開始する中で、同国際情報通信研究科（GITS）と合わせてますます活発化する教育・研究活動を強力に支援していくための様々な取り組みを進めてまいりました。

具体的には、環境および情報通信に関わる地域企業との共同研究等の支援・コーディネートをはじめとして、大学院学生や留学生の日常的な活動を支える地域協力体制の整備にも力を入れる一方、国の競争的資金による事業実施機関として組織的な管理運営体制の確立を図ってまいりました。

また、地域との連携につきましては、本庄市と早稲田大学の間で結ばれた包括協定のもと、市役所職員の研修ワークショップから小学校児童の総合的学習への協力まで、地元とのつながりを活かした様々な連携協働活動のコーディネートを行ってきました。こうした中、本財団が企画運営を担当した「まちづくり大学2005」が、住民主体のまちづくり活動を促すユニークな試みとして注目を集め、今後の展開にも期待が集まっています。

さらに、周辺企業からも定評ある活動実績を積み重ねてきた企業支援・インキュベーションの分野でも、「I O C（インキュベーション・オン・キャンパス）本庄早稲田」から最初の“卒業企業”を輩出するなど着実な成果が評価されております。

ここに、こうした過去1年間の財団の概況と事業活動の状況および財団の財政状況につきまして、広くみなさまにお伝えするとともに、財団事業全般に対する率直なご意見、ご批判等をお寄せいただきたく、『財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構2005年度年報』を刊行する次第であります。

地球規模の大転換期を迎えた今日、本財団が推進するリサーチパークづくりの取り組みも、全く新しいパラダイムの下、次代を切りひらく革新的な〈知の共創〉のモデルを、日本全国に、さらにはアジアをはじめとする全世界に発信するという大きな役割を担っていくものと確信しております。

本財団では、引き続きこのような理念と意気込みで所期の事業を推進していく所存ですので、さらに一層、内外の方々からのご指導を仰いでまいりたいと存じます。

今後とも、皆様の絶大なるご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。



2006年9月

理事長 白井克彦

CONTENTS

I. 法人の概況	1
II. 事業活動の状況	4
III. 財務諸表	32

法人の概況

1 設立

2002年4月18日の申請に基づき、民法第34条の規定による財団法人として、2002年5月17日、埼玉県知事より許可された。

2 寄附行為に定める目的

この法人は、本庄地方拠点都市地域において、次世代型地域づくりのモデル都市構築を志向し、国際的な科学技術革新を先導する産学官連携による学術研究都市づくりを進めるとともに、併せて、新産業・新技術の創出等による地域産業の振興や、企業・住民の研究・教育活動への支援などを通して、地域の発展に寄与することを目的とする。

3 寄附行為に定める事業

- (1) 学術調査研究及び産業技術の研究開発
- (2) 研究開発活動に対する支援
- (3) 産学共同研究、研究交流、人材・地域企業育成等の促進
- (4) セミナー・研究会の開催
- (5) 知的所有権の管理
- (6) 地域開発計画の調査・研究及び立案
- (7) 調査研究報告書の刊行
- (8) 研究教育施設等の管理・運営
- (9) その他この法人の目的を達成するために必要な事項

4 許認可に関する事項

(1) 事業実績等報告書

2004年度の事業報告書および収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録(2005年7月27日 理事会・評議員会において議決)の届け出について、2005年7月29日に埼玉県に提出した。

(2) 事業計画および収支予算届

2006年度の事業計画および収支予算(2006年3月27日 理事会・評議員会において議決)の届け出を2006年3月30日に埼玉県に提出した。

5 理事会・評議会に関する事項

(1) 2005年度第1回理事会・評議員会(合同開催)

開催日：2005年7月27日(水)

開催場所：早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター

出席者数：理事6名、評議員14名(委任5名)

議決事項：第1号議案 役員の退任および選任について
 第2号議案 評議員の退任および選任について
 第3号議案 2004年度事業報告について
 第4号議案 2004年度決算について
 第5号議案 2005年度補正予算について

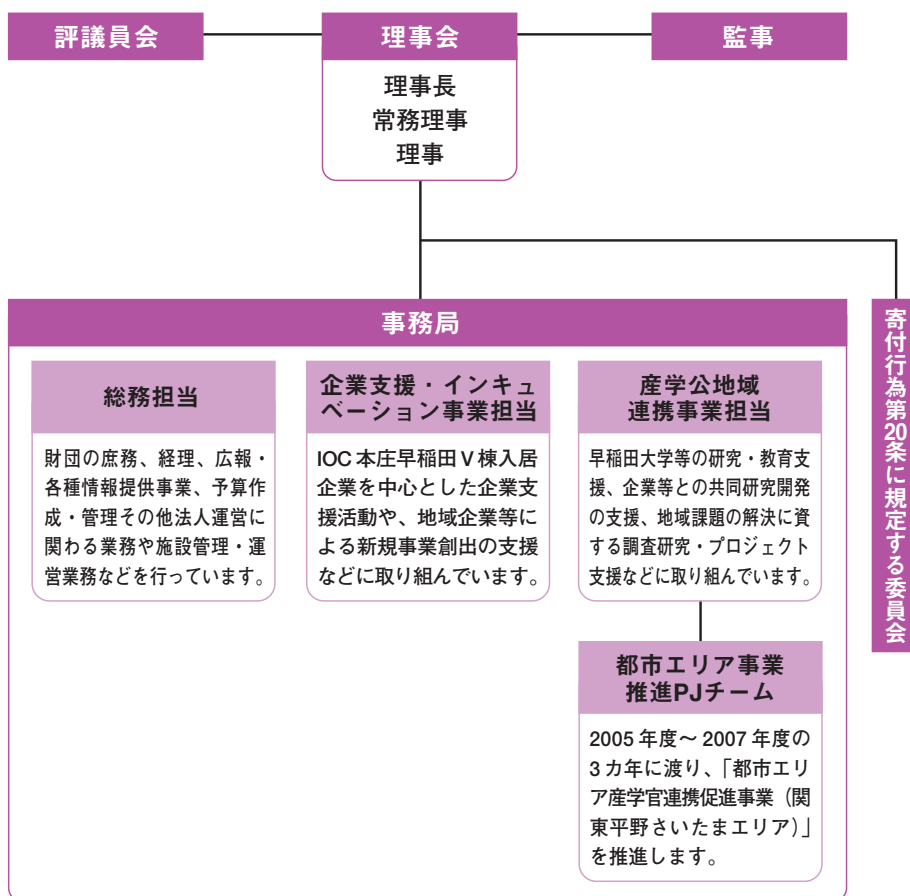
(2) 2005年度第2回理事会・評議員会(合同開催)

開催日：2006年3月27日(月)

開催場所：早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター

出席者数：理事6名、評議員14名(委任6名)

議決事項：第1号議案 役員の選任について
 第2号議案 理事長および常務理事の選任について
 第3号議案 評議員の選任について
 第4号議案 2006年度事業計画(案)について
 第5号議案 2006年度予算(案)について



6 役員等に関する事項 (2006年5月31日現在)

理事長	白井 克彦	学校法人早稲田大学総長(理事長・学長)
常務理事	村岡 洋一	学校法人早稲田大学常任理事
常務理事	小林栄一郎	学校法人早稲田大学常任理事
理 事	吉田 信解	本庄市長
理 事	田村 啓	神川町長
理 事	増野 武夫	本庄国際リサーチパーク推進協議会会長
理 事	友成 真一	学校法人早稲田大学本庄プロジェクト推進室室長 早稲田大学理工学術院客員教授
理 事	村上 義紀	財団法人私立大学退職金財団常務理事
監 事	玉越 正義	学校法人早稲田大学財務部長
監 事	小出 暢宏	株式会社埼玉りそな銀行本庄支店長
評議員	奥島 孝康	早稲田大学大学院法務研究科教授
評議員	浦野 義頼	早稲田大学大学院国際情報通信研究科長
評議員	松本 充司	早稲田大学大学院国際情報通信研究科センター副所長
評議員	永田 勝也	早稲田大学環境総合研究センター所長
評議員	寄本 勝美	早稲田大学政治経済学部教授
評議員	小倉 優	学校法人早稲田大学総合企画部長
評議員	田内 秀昭	学校法人早稲田大学総務部長
評議員	馬場竹次郎	埼玉県総務部長
評議員	野口 重信	美里町長
評議員	関根 孝道	上里町長
評議員	鶴谷 豊治	深谷市助役
評議員	矢口 富夫	独立行政法人中小企業基盤整備機構関東支部長
評議員	中島 一郎	東北大学大学院工学研究科教授
評議員	山崎 隆司	東日本旅客鉄道株式会社総合企画本部投資計画部担当部長
評議員	石川 洋美	学校法人芝浦工業大学名誉理事長
評議員	伊藤 滋	東京大学名誉教授、慶應義塾大学大学院客員教授
評議員	佐分利正彦	埼玉工業大学副学長、同教授
評議員	須藤 隆一	埼玉県環境科学国際センター総長
評議員	渡邊 良雄	筑波大学名誉教授
評議員	富澤 理	元埼玉日本電気株式会社代表取締役

II

事業活動の状況

1 研究・教育支援事業

●早稲田リサーチパーク内の大学院・研究機関等による教育・研究活動と各種関連事業に対する支援（環境系、情報通信・映像系、経営系等）。

- (1) 大学院・研究センター等による教育・研究活動の支援
- (2) 大学院・研究センター等による教育・研究関連事業の支援

2 産学公・地域連携事業

- 産・学・公・地域の連携による研究交流・協働活動の促進（研究会、勉強会等）
 - 企業と大学等との連携プロジェクトの支援・コーディネートおよび管理運営
 - 地域振興・まちづくり等に関わる計画立案、プロジェクト支援・コーディネート等
- (1) 産学公・地域連携促進のためのコーディネート活動
 - (2) 地域連携プロジェクト
 - (3) 企業連携プロジェクト

3 企業支援・インキュベーション事業

- インキュベーションマネージャー（IM）による起業支援・新規事業化支援
 - 地域企業を対象とした新事業創出、経営革新等の支援・コーディネート
- (1) インキュベーション活動
 - (2) 企業支援・コーディネート活動
 - (3) 新事業創出促進活動

4 地域交流・人材育成事業

- 市民参加による地域交流・協働活動の促進
 - 環境配慮、まちづくり、文化・教育等に関わる地域人材の育成
- (1) 地域交流事業
 - (2) 人材育成事業

5 研究教育施設の管理運営事業

- (1) IOC 本庄早稲田の管理運営
- (2) 早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンターの管理運営及び教育・研究関連業務支援
- (3) 本庄ドミトリの管理運営

6 その他事業

- (1) PR 事業
- (2) 調査研究報告書等刊行事業
- (3) 賛助会員の募集活動

1 研究・教育支援事業

本庄キャンパスでの展開を加速する早稲田大学の大学院・研究センター等による研究・教育活動と、これに関連した各種事業に対するさまざまな支援を行っております。

(1) 大学院・研究センター等による教育・研究活動の支援

2005年度からは、大学院理工学研究科内に新設された環境・エネルギー専攻が本庄キャンパスでも講義・演習を開始し、すでに本庄に本拠を置いて2年目を迎えた大学院国際情報通信研究科（GITS）とも相まって、早稲田大学の教育・研究活動もいよいよ本格化しつつあります。

こうした中で本財団では、早稲田大学の大学院・研究センターやその他人文・社会系、経営系等を含む各分野の教員研究者・学生が、早稲田リサーチパーク内の諸施設や周辺地域の関連機関等を活用して進める教育・研究活動に対して、これを日常的に支える各種の業務支援から、共同研究等の支援・コーディネート、地域的な協力体制や支援インフラ等の環境整備に力を入れています。



環境系も本格始動！

新設の「環境・エネルギー専攻」でも本庄初講義

2005年度から大学院理工学研究科に新設された「環境・エネルギー専攻（修士課程）」では、4月2日大久保キャンパスで開かれた入学式の後、15日（金）からはいよいよ本庄キャンパスでの授業が始まりました。今後前期の本庄キャンパスでは、毎週月曜日と金曜日に「環境・新エネルギー」「エネルギー・環境政策」等の科目の講義、演習が行われます。



こうした早稲田大学の展開に対応して本財団でも、環境系をはじめとした研究者・学生の研究活動に対し、地元との結びつきをベースに、周辺企業との共同研究のコーディネートなど、さまざまな支援を進めています。[→2 (3)「企業連携プロジェクト」を参照]（RPN4月号*）

※RPN：『本庄早稲田 リサーチパークニュース』（本財団発行）。以下、（RPN〇月号）と文末に記載があるものは、当該月号の掲載記事をもとに加筆・再編集したものです。



「新人作家の登竜門」を突破した才能が3名入学

ぴあ(株)との提携により今年度からPFF受賞者がGITSへ

2005年4月より、映像分野での産学連携の試みとして、早稲田大学と提携関係にあるぴあ株式会社が主催する「ぴあフィルムフェスティバル（PFF）」のコンペティション部門入賞者の中から希望者はGITSに入学できる制度が始まりました。現在、PFFで入賞した3名が早稲田大学大学院国際情報通信研究科（GITS）に入学し、安藤紘平教授の研究室で映画制作を学んでいます。

PFFとは、「映画の新しい才能の発見と育成」を目指した自主制作映画のコンペティションで、新人映像作家の登竜門ともいわれています。今年のPFFは7月15日(金)に渋谷東急にて表彰式が開催され、懇親会では、早稲田大学特命教授で映画監督の篠田正浩氏から「本庄早稲田には映画制作の環境が整っており、もっと本庄早稲田を活用していきたい」とのお話がありました。(RPN8月号)



(2) 大学院・研究センター等による教育・研究関連事業の支援

早稲田大学の大学院・研究センター等がリサーチパーク内外で実施する各分野の講演会・研究発表会、シンポジウムなど関連事業の共同開催、開催協力等の支援を行っています。

■「国際情報通信研究 公開発表会」の後援

「グローバルコミュニケーションの拠点を目指して」をメインテーマに、GITI/Sを構成する各専攻分野の教員・学生や研究参加者などが参加して、9本の研究発表と50本余りのポスター展示が実施されました。同時開催イベント「環境と資源へのまなざし—生活と科学」では、秋葉忠利・広島市長による講演「平和とエネルギー」が行われました。

日時：2005年10月19日(水) 10:30～17:00 場所：WRPCC

主催：早稲田大学国際情報通信研究センター(GITI)、早稲田大学大学院国際情報通信研究センター(GITS)

後援：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構、本庄商工会議所、(社)こだま青年会議所

■「野村万作・萬斎 狂言教室」の開催支援

「野村万作・萬斎 狂言の会」の録画を希望した本庄高等学院の求めに応じて、会場との連絡調整や国際情報通信研究科の学生ビデオ撮影の補助を行いました。

日時：2005年11月16日(水) 場所：本庄市民文化会館大ホール

主催：早稲田大学本庄高等学院



本庄高等学院の活動も支援しています 「野村万作・萬斎 狂言教室」

11月16日(水) 本庄市民文化会館大ホールにて、早稲田大学本庄高等学院芸術鑑賞教室『野村万作・萬斎 狂言の会』—早稲田のOB野村万作が後輩たちに贈る—が開催されました。第一部は「萩大名」、第二部は「六地蔵」が上演されました。

最初に萬斎さんの丁寧な解説付きで始まり、学院生も度々笑いの声もあがるほど堪能できた様子でした。(RPN12月号)



■「第3回 本庄情報通信研究開発支援センター研究発表会」の共催

日本のデジタル映画の“聖地”ともいうべき（独）情報通信研究機構・本庄情報通信研究開発支援センター（NICT）での研究成果を広く一般に周知する研究発表会を共催。映像文化創造に関わる最先端の産学連携事例として、日本で初めて高速ネットワーク回線を活用した商業映画編集に挑まれた樋口真嗣監督と技術スタッフをお招きしてパネルディスカッションを行いました。

日時：2005年11月21日（月）13：00～17：30 場所：WRPCC

主催：本庄情報通信研究開発支援センター利用促進協議会、（独）情報通信研究機構 本庄情報通信研究開発支援センター

共催：（財）本庄国際リサーチパーク研究推進機構



映画「ローレライ」の樋口監督ら参加で大盛況！ 「第3回 本庄情報通信研究開発支援センター研究成果発表会」を開催

11月21日（月）早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター（WRPCC）4階レクチャールームにおいて、「第3回 本庄情報通信研究開発支援センター研究成果発表会」が開催されました。

◆安田浩東教授の基調講演で開幕

第一部では、東京大学・安田浩教授の基調講演に続き、早稲田大学大学院国際情報通信研究科（GITS）河合隆史助教授と高木真一客員研究員がそれぞれ講演を行いました。

◆デジタル映画制作の裏話など普段聞けない話題も

第二部では、早稲田大学・友成真一教授の司会でパネルディスカッションが行われ、パネリストには映画「ローレライ」の樋口真嗣監督、プロデューサーの甘木モリオ氏、VFXプロデューサー大屋哲男氏、ネットワークを構築した高木真一氏【写真右】が出席して、デジタル映画制作の裏話を語っていただきました。会場は立ち見が出るほどの



の盛況さで、デジタル映画制作過程の興味深い映像を見ながら、普段接することの出来ない話の内容に聞き入っていました。

◆「雨の日はしょうがない」上映で大いに盛り上がる会場

続く第三部では、GITS大学院生と市民との協同制作短編映画「雨の日はしょうがない」が上映され、映画の中で早稲田の関係者や市民等顔なじみが画面に登場すると、会場から大きな歓声や笑い声が上がっていました。【→右写真は同作のDVD】

第一部から第三部まで、質疑応答では会場から活発な発言が相次ぎ、参加された方々の映画制作への関心の高さと共に、地域づくりに映画を活用したいという意欲が強く感じられました。



研究成果発表会の終了後、馬車道にて懇親会が開かれ「雨の日はしょうがない」に主演した荒井亜里奈さんも参加して、映画出演の感想と思いを語っていただきました。また、研究成果発表会において、増野武夫・本庄情報通信研究開発支援センター利用促進協議会長や、吉田信解本庄市長からは、今後映画を地域産業や町おこしに活用したいとのメッセージが表明されていました。（RPN12月号）

2 産学公・地域連携事業

早稲田大学をはじめとする多様な研究・教育資源（知的リソース）をフルに活用し、早稲田リサーチパークを拠点とした「産学公・地域連携」によるさまざまな交流・協働の場づくりに力を入れております。あわせて、財団独自の事業展開にもつながる特定企業や地域との連携プロジェクトについても、その計画立案からの一貫したコーディネートと質の高い実行プロセスを通じたトータルプロデュースにより、着実な成果をあげつつあります。

(1) 産学公・地域連携促進のためのコーディネート活動

早稲田リサーチパークを中心に周辺広域エリアの大学・研究機関、関連企業、自治体・市民団体などが参加する研究会、勉強会等の交流機会をコーディネートするとともに、今後の共同研究や協働活動、新事業創出等につながるプロジェクトチームの形成を進めています。

本財団が事務局等のコーディネートを行っている今年度の活動としては、「地域水環境再生勉強会」や「本庄PF研究会」、「医療情報セキュリティ勉強会」などがあげられます。

■「地域水環境再生勉強会」の活動支援

この勉強会は、IOC 本庄早稲田V棟入居企業である真下建設(株)と本財団が事務局となり、2004年8月に発足。早稲田大学理工学部（社会環境工学科）榊原豊教授の研究室を中心に、埼玉県環境科学国際センター等の専門研究者や本庄地域の行政、市民などの有志が連携した取り組みを進めています。



元小山川で調査する榊原研究室の学生たち

2005年度第1回「地域の共有資源としての水を考える」

日時：2005年7月20日（水） 場所：WRPCC

2005年度第2回「本庄の地下水と湧き水について考える」

日時：2005年11月17日（木） 場所：WRPCC



調査現場で大学院生と小学生が協働

早稲田大学・榊原研究室と藤田小学校、元小山川で共同魚類調査

2006年1月6日（土）、本庄市内を流れる元小山川と小山川で、早稲田大学理工学部榊原豊教授と研究室の学生が、市内藤田小学校の児童とともに魚類調査を実施しました。

榊原研究室により定期的に行われている元小山川の水質・魚類調査に、今回は本庄市と早稲田大学で結ばれた包括協定を受け、本庄市教育委員会の賛同と協力のもと、藤田小学校の5年生5名が参加して行われました。当日は、この冬一番の寒さの中でしたが、アブラハヤやタモロコなど計10匹の魚を仕掛け網で捕らえ、調査・観察することができました。（RPN1月号）



■「本庄PF研究会」の活動支援

2002年4月に発足した地元農家グループによる研究会（会長：澁澤栄・東京農工大教授）について、勉強会の開催や行政・研究機関・企業等との連携、各種調査研究や実証実験などの支援を行っています。



目標は農業発の新しいビジネス！ 本庄PF研究会の活動に新たな成果

◆「東京ファーマーズマーケット2005」に出展

農業発の新しいビジネスを目指す本庄PF研究会が、2005年11月1～6日に東京丸の内（丸ビル横）で開催された「東京ファーマーズマーケット2005」（実行委員会委員長：宮澤喜一元首相）へ出展しました。本庄PF研究会のブースには吉田信解本庄市長も足を運び、きゅうり・大和芋・ブロッコリー等の販売を行いました。【写真右】



◆「立ち上がる農山漁村」に認定

2005年12月8日、「立ち上がる農山漁村」として認定されました。「立ち上がる農山漁村」は農林水産省が有識者会議を通じて地域の個性を生かした自発的・独創的な経営マインドにより、農林水産業を核として、地域経済の活性化と地域雇用の創造に向けて自律的に取り組んでいる先駆的な事例を選定するものです。

「農山漁村振興への力強い情熱と独自の経営感覚をもって、地域資源を最大限に活用し革新的な地域戦略によって、地域の活性化に寄与しており、他の地域の模範となるもの」との評価を受け、2006年2月13日には、霞が関において認定証授与式兼意見交換会が開催され、代表者が出席いたしました。【写真右】



(2) 地域連携プロジェクト

本庄周辺地域をはじめ埼玉－上信越エリアの各地域との連携を強化し、早稲田大学をはじめとする知的リソースの活用により、地域が抱える諸課題の解決を図ろうとする県・市等の自治体や商工団体、市民団体等との地域連携・協働プロジェクトのコーディネート及び事業プロデュースを進めています。

2005年度に本財団が取り組んできた主な地域連携プロジェクトとしては、以下の諸事業があげられます。

①早稲田大学と本庄市の包括協定にもとづく協働連携プロジェクト

【→特集1（p.10）】

②都市エリア産学官連携促進事業（文部科学省）【→特集2（p.11）】

③その他の地域連携プロジェクト【→zoom up！コラム（p.13）】

特集 1 早稲田大学と本庄市の包括協定にもとづく 協働連携プロジェクトの支援

2005年5月11日（水）、早稲田大学と本庄市は、「協働連携に関する基本協定書」に調印し、まちづくりや産業振興、人材育成など幅広い分野で協力・協働の関係を深めていくことを確認しました。

この包括協定にもとづく早稲田大学と本庄市との連携事業に当たっては、本財団との連携・協力による事業の推進がうたわれており、本財団の地域に密着したコーディネート能力の強化が今後さらに求められています。



調印を終えて握手する
白井・早大総長（写真
左）と茂木・本庄市長
（当時）

▶▶ 早稲田大学と本庄市が包括協定～「新しい時代」の「新しい関係」を構築

2005年5月11日（水）午前10時より、本庄市役所において、白井克彦・早稲田大学総長（本財団理事長）と茂木稔・前本庄市長が出席し、基本協定書の調印式と共同記者会見が行われました。

両者の関わり合いは1960年代の誘致活動に始まりますが、昨春の早稲田リサーチパークの開所、大学院国際情報通信研究科の開校、今春の理工学研究科環境・エネルギー専攻の授業の開始など早稲田大学の本庄地域での活動はますます

盛んになりつつあります。一方、本庄市を取り巻く環境も本庄早稲田駅の開業、児玉町との合併など確実に変化しつつあります。

今回の協定では、このような早稲田大学と本庄市を取り巻く環境の変化に対応し、両者が「新しい時代」の「新しい体制」による「新しい関係」の構築を図り、互いの資源・資産を有効に活用し、相互に発展していくことを目指しています。（RPN5月号）

▶▶ 若手職員研修「まるかじり未来劇場」や総合的学習の支援など、協働連携の活動が始動

包括協定を受けて本庄市では、全庁的な「早稲田大学との連携推進委員会」（委員長は内野隆次前助役）を立ち上げるとともに、トップ以下担当部署と大学・財団との定期的な協議の場を設け、従来にはない相互のコミュニケーションを図りつつあります。こうした中で2005年10月には、市役所の若手職員をメンバーとして、本庄の未来像を自由に議論しあう研修ワーキング「本庄まるかじり未来劇場」【写真右】がスタートしたほか、市内小中学校の総合的学習や新都心地区の

まちづくりの課題に取り組む協同した活動が進められています。



吉田本庄市長（中央後方）とコーディネーターの友成教授（右後方）

▶▶ 包括協定後、大学院留学生と市内小学校とのさまざまな交流活動が活発化！

2005年5月の早稲田大学と本庄市の包括協定締結後、市内小学校の児童と同大学院国際情報通信研究科の留学生、そしてその家族との交流が開始されました。

最初の一步は、2005年12月、市内中央小学校の日本語学級（外国籍児童の日本語習得のための学級）のクリスマスパーティー。ペルーからの留学生の奥様に、「ペルー児童の力になってあげてほしい。」との担当の先生からのラブコールがきっかけでした。日本語もまだ片言で、日本での生活に不安を持つ子どもたちを前に、「日本に来たことを好機と捉え

て頑張れば、いつの日か必ず、大きな花を咲かせることができる。皆さんはペルーにいたらできない貴重な経験ができて幸せ」とスピー



ン語でエールを送りました。【写真前ページ右下】

その後も、仁手小学校、東小学校の総合的学習の一環である「国際理解」の授業に、カンボジア、タイ、バングラデシュ、ペルー、モロッコ、ブラジルの留学生が参加。お得意のパワーポイントを使つての各国の紹介や、ジョークを盛り込んだ話に魅了された子どもたち。ブラジルのダンスですっかり友達になり、「外国人＝怖い」という先入観から

「楽しい、優しい人もいる」との好印象にみるみるうちに变化していきました。

また、子どもたちが、人、文化、言語等の世界の多様性を、交流を通じて実際に体感し、興味を持ってさまざまに質問をなげかける姿に留学生たちも大感激。この交流を皮切りに、6年生を送る会、卒業式、英語クラブに招かれるなど、今も親密な交流が続いています。

特集 2 都市エリア産学官連携促進事業(文部科学省)による「資源循環」関連プロジェクト

本財団では、2005年4月に文部科学省より採択を受けた埼玉県提案の「都市エリア産学官連携促進事業(関東平野さいたまエリア)」の中核機関として、2007年度までの3年間にわたり、「資源循環」をテーマに産学官連携の基盤づくりのための一連の事業に取り組むこととなっています。

この事業は、埼玉県が寄居町に整備している「彩の国資

源循環工場」と、近接する早稲田リサーチパークを拠点として、資源循環・リサイクルに関わる県内産学官の幅広い連携・交流活動を展開する中で、廃棄物問題解決のための個別リサイクル技術や共通基盤技術の開発・事業化を促し、環境関連産業の集積・活性化を促進しようとするものです。



「本庄早稲田 資源循環フォーラム」

「資源循環フォーラム」は、都市エリア事業全体の中心的取り組みとして位置づけられ、廃棄物処理・再資源化にかかわる関連企業と大学・研究機関、行政など「産学公民」による幅広い交流の「広場(フォーラム)」として、継続して運営・開催されることとなっています。

【第1回研究交流会】—都市エリア事業がキックオフ—

2005年8月22日に開催された第1回研究交流会では、早稲田大学理工学部教授で同環境総合研究センター副所長の大和田秀二先生より「環境調和型リサイクリングとその応用事例」と題する基調講演が行われました。また、「産」側からは、(株)エコ計画の井上功社長より、過去35年の先駆的な取り組みに裏打ちされた「資源循環型社会の構築と業界の今後の課題」にかかわる問題提起が行われました。



その後の意

見交換では当財団の科学技術コーディネータを進行役に、参集した約100名の「産学公」によりそれぞれの取り組み状況や今後に向けての提案などが活発に交わされていました。

【写真右上】(RPN9月号)

【第2回研究交流会】—さいたま新都心で開催—

次いで11月28日(月)には、さいたま新都心の産学交流プラザ(彩の国8番館)を会場に、資源循環フォーラムの第2回研究交流会が開催され、県南地域の企業をはじめ約50名の「産学公」が参集しました。後援は、早稲田大学・環境総合研究センターと埼玉大学・地域共同研究センター。

当日は、埼玉県環境科学国際センター・廃棄物管理担当部長の小野雄策氏より、「廃棄物問題の現況と資源循環型物流システムの構築—廃棄物の質の管理と分離技術—」についての講演と問題提起が行われました。

【写真右】

これを受けてのフォーラムセッションは、各自会場内のドリンクバーで淹れた



コーヒーなどを飲みながら、なごやかな雰囲気の中で進められました。廃棄物処理やリサイクルにかかわる企業からは現状の説明や課題解決策への質問、大学・研究機関の先生方からは、それについての学術面からの回答や研究開発動向の紹介など、多彩で充実した意見交換が行われました。(RPN1月号)

▶ 「都市系食品バイオマス資源化推進シンポジウム」を都市エリア事業で開催

都市エリア産学官連携促進事業の研究交流事業として、2006年3月1日（水）、さいたま市文化センターにおいて「第1回都市系食品バイオマス資源化推進シンポジウム」を埼玉県農林総合研究センターとの共催で開催いたしました。

第一部では、東京農業大学（北海道大学名誉教授）但野利秋教授から、基調講演として「都市系食品バイオマスの資源化と地域循環農業の展開方法」を講演いただきました。第二部では、埼玉大学・西山賢一教授の司会でパネルディスカッションが行われ、現状の食品バイオマスが抱える課題につい

て議論しました。当日は250名の方にご参加いただき、農業生産者の生の声も交えながら、生ゴミ収集にかかわる法整備等の内容について質疑応答がなされました。

最後に主催者より、「食品バイオマス」を活用・成功させるには、排出者、流通、堆肥製造者、農業生産者、消費者及び研究者の連携・情報の共有化が一層重要であるため、ネットワークの立ち上げを行うとのメッセージが表明されました。（RPN2月号）

▶ 企業側ニーズに対応した大学等への委託調査（F/S）・可能性試験を実施

研究交流活動を通じて明確化された地域的・技術的な課題に対応して、その事業化可能性の検討等のための委託調査（F/S）3件と今後の産学連携による共同研究開発に向けた可能性試験2件を以下の諸テーマで実施し、今後の実用化開発や共同研究プロジェクトへの足固めを行いました。

〔可能性試験〕

①『廃蛍光管ガラス両端部の分離処理と安定化・再資源化技術の開発に関する可能性調査及び試験研究』（委託先：早稲田大学・環境総合研究センター）

②『使用済み軽合金部品材料の高品質化・リサイクル技術の開発可能性試験』

（委託先：早稲田大学・各務記念材料技術研究所）

〔委託調査（F/S）〕

①『植物性産業廃棄物（コーヒー粕）の再資源化試験と生成物の市場化可能性調査』【写真右上】

（委託先：アサヒ・インターナショナル㈱）

②『地域リサイクル産業における新規プロセス技術の開発可



能性に関する調査』

（委託先：㈱シュタインバイスジャパン）

③『地域リサイクル産業の活性化に向けた企業戦略の再構築に関する調査』

（委託先：早稲田リバイタルパートナーズ㈱）

▶ 埼玉大学と早稲田大学を中心とした共同研究プロジェクトを推進

あわせて都市エリア事業では、エリア内産学官による先導的な共同研究開発のモデルプロジェクト（3ヵ年計画）として、都市廃棄バイオマスを活用したバイオディーゼル燃料等

の製造・利用技術とその効率性・安全性の向上に資する分離・選別、環境評価等の共通基盤技術の開発を、埼玉大学、早稲田大学への委託研究により実施しました。

▶ 埼玉県「新産業集積（産業クラスター）形成モデル事業」／「産業クラスター・フォーラム」

都市エリア事業に連動した埼玉県による委託事業「新産業集積形成モデル事業」において、上記の資源循環フォーラム以外の分野・テーマ（環境分野全般や情報通信等の分野）を含めて、エリア内外の産学官による個々の研究交流や勉強会等の機会を積極的に支援し、共同研究体・グループの組成を促していくための活動を実施しました。

また、埼玉県の主催により2006年2月2日（木）に、さいたま新都心の産学交流プラザ（彩の国8番館）で開催された「産業クラスター・ネットワークフォーラム」において、本財団からは「環境産業分野」において都市エリア産学官連携促進事業による取り組み状況と課題等についてプレゼンテーション及びパネルディスカッション参加を行いました。



児童たちの交流の輪が広がった！

沖縄県宜野湾市長田小学校の 神泉村立神泉小学校訪問をコーディネート

2005年12月27日、沖縄県宜野湾市長田小学校児童14名が神泉村立神泉小学校を訪問し、お互いに芸能を披露し合ったり、沖縄にはない餅つきをしたりして交流を深めました。

この交流は、旧通信・放送機構の2001年度都市コミュニティ研究成果展開事業で早稲田大学と琉球大学が衛星通信回線を使ったテレビ会議の実験・研究を行った際に、沖縄県内と本

庄地域の小学生たちにテレビ会議を通じた交流を行ってもらったのがきっかけとなり始まりました。今回の交流に先立ち、小学生たちはテレビ会議を使った交流活動も行っています。なお、昨年度は、神泉小学校の児童たちが長田小学校を訪問しました。



神泉小学校で交流する両校の児童たち

(3) 企業連携プロジェクト

埼玉―上信越エリアの企業・産業界と早稲田大学をはじめとする知的リソースの連携をコーディネートすると共に、プロジェクトマネジメント機能を発揮して、次世代の新技術・新事業の開発・創出、個別企業・産業の活性化等を支援する活動を進めています。

2005年度は、サンデン株式会社と早稲田大学・環境総合研究センターとの包括協定や、キャノン電子株式会社と早稲田大学大学院国際情報通信研究科／国際情報通信研究センターとの共同研究協定の締結に関わる支援・コーディネート活動などに力を入れてきました。



留学生への奨学金援助も決定

キャノン電子(株)と早稲田大学GITS・GITIが 共同研究で協定調印式

9月22日(木)、早稲田大学大学院・国際情報通信研究科(GITS)・国際情報通信研究センター(GITI)とキャノン電子株式会社との間で、共同研究の調印式が行われました。

今後両者では、情報セキュリティや無線通信等の情報通信に関する共同研究を行い、アジアからの留学生に奨学金の支援を行うこととなりました。

また、本庄キャンパス内の研究棟に共同研究室を設置し、10月から活動を開始しています。(RPN10月号)



調印を終えて握手するキャノン電子・酒巻社長(左)と早大・浦野GITI所長



人の縁・地の利を生かした実りある連携を サンデン(株)ー早稲田大学・環境総合研究センターが 包括協定締結

6月20日、サンデン株式会社（本社群馬県伊勢崎市）と早稲田大学環境総合研究センターは、本庄研究機構のコーディネートにより、環境分野を中心とする研究・教育機関に関する包括協定を締結しました。

本財団のコーディネートによる包括連携の第1号。提携の内容は、（1）環境分野における技術開発、新規技術に関する共同研究や技術交流の実施、（2）研究者・技術者等の人的交流を通じた研究交流、または相互指導の実施、（3）双方の共同研究等に基づく成果発表や情報交換の3点。

群馬県伊勢崎市に本社を置くサンデン(株)は、地理的に近い利点を生かし、本庄キャンパスで活動する環境総合研究センターと広範囲な連携を実施していく意向。サンデン(株)はすでに、自然系冷媒を用いた冷凍サイクルの研究やCGを活用した仮想店舗に関する研究を、環境総研と本庄を拠点として進めており、今回の協定を機に一層の連携強化に努めたいと話しています。さらに、今後は人文系も含めた早稲田大学の広範囲な知的資産との連携も視野に入れています。（RPN7月号）



勝田教授から研究報告を受けるサンデン社員



3 企業支援・インキュベーション事業

(1) インキュベーション活動

①IOC 本庄早稲田におけるIM活動

特集 3 IOC 本庄早稲田におけるIM活動

インキュベーションマネージャー（IM）が中心となり、インキュベーション・オン・キャンパス（IOC）本庄早稲田ベンチャーゾーン（V棟）の入居者に対して、新規事業や第二創業を迅速にかつ確実に成長軌道に乗せることを目標に、経営総合相談、大学や支援機関等とのコーディネート、各種専門家の紹介、交流会・ワークショップ等の開催、各種補

助金等の情報提供、受付サービスなどのインキュベーション活動を行うとともに、早稲田大学等の研究者とのマッチング、入居企業による勉強会・研究会等の支援・コーディネートを行っています。

今年度は第1号の卒業企業や新商品開発に成功した企業も輩出して、IM活動も新たなステージを迎えました。

▶▶▶ 第1号“卒業”企業が語る成長の軌跡

㈱ウム・ヴェルト・ジャパンは2002年に設立され、蛍光管のリサイクル事業を行っている企業です。今般は㈱ウム・ヴェルト・ジャパンの小柳社長にお話をおうかがいしました。[*同社は2005年9月末にIOC本庄早稲田を卒業。]（聞き手：財団インキュベーションマネージャー 山下 格）

山下 インキュベーション・オン・キャンパス（IOC）本庄早稲田を繰り上げて卒業され見事に工場も完成、誠におめでとうございます。

完成からわずか2カ月のこの時期、すでに稼働率20%に達し、来年度は早くもフル稼働になるとお聞きしております。きわめて順調な新規事業の立ち上げですが、その要因はどの辺りにありますか。

小柳 IOC本庄早稲田に入居して、早稲田大学や埼玉工業大学などの研究者と連携を組むことができ、技術的な課題を解決できたことが最大の要因です。詳しくは申し上げられませんが、大学との連携で開発された設備が活躍しております。またその設備は連携大学の学生が運転しております。

山下 産学官連携のコーディネートは、私共が最も重要視している支援活動の一つです。

お役に立てて嬉しいですね。正直言ってこの事業は当初、設備が完成してもビジネスとして成り立たせるのは骨の折れる仕事でないかと心配しました。

蛍光管リサイクル事業は、わが国ではほとんど大手企業が抑えているでしょう。そこで財団では次に、無名のウム・ヴェルト・ジャパンさんの信用や知名度の向上にお役に立てる活動を中心にする方針で臨みました。

小柳 マスコミを中心に情報発信をしていただき、社会的信用が上がり、この事業展開に大変な援護射撃となりました。

工場完成とともにすでに高い稼働率でスタートできたのもそのお陰とっております。現在も大手企業さんなどに営業をしておりますが大変順調に商談がまとまっております。引き続き、営業面での後方支援をお願いします。

山下 無名のベンチャー企業さんは、信用面で大きなハンディキャップがありますね。その点のご支援は卒業後も引き続きお約束します。ところで現在すでに何名くらいの雇用に繋がっていますか。

小柳 すでに15名が働いています。来年度、フル稼働となれば25名体制になる予定です。その時は、事業規模も4億円程度を達成できます。IOC本庄早稲田入居中は、埼玉県から家賃補助をいただきましたが、何とか恩返しできるのではと思っております。この事業の一番の目的は蛍光管に使用されている水銀を除去して地球環境を守ることでした。その夢の実現に一步近づいたといえます。

山下 今後の抱負を聞かせてください。



説明をする小柳社長

小柳 大量に出てくる蛍光管リサイクルガラスをより高い品質にして、付加価値の高いリサイクルガラスの用途開発と販路開拓を実現することです。

山下 既にガラス工芸品にも手を掛けていますが、もっと大規模な用途開発ですか。

小柳 そうです。建設資材や断熱材などが考えられますが、わが社には現在その分野への実績がありません。

山下 次の我々の支援テーマは、ガラスの販売ルートの開拓で行きましょう。



2005年11月竣工した新工場の外観



第2期第1号入居企業(株)エム・ソフトー GITS との産学連携に期待

2005年9月末にIOC本庄早稲田を卒業した(株)ウム・ヴェルト・ジャパンに代わり、2005年12月にIOC本庄早稲田・V棟202号室に(株)エム・ソフト（東京都台東区、小暮恭一社長）が新たに入居しました。

(株)エム・ソフトは多分野にわたるソフトウェア開発を行っており、その一つCanon製プリンタのソフトウェア開発においては、画像とプリンタで出力される「色」の差をできるだけなくすための計算・変換ツール開発において高い技術力

を有しています。

今後は早稲田大学本庄キャンパスに研究室を構える、早稲田大学大学院国際情報通信研究科（GITS）の松本充司教授との産学連携のもとで、近距離赤外線通信技術を活用した新商品開発、市場化を目指します。埼玉県出身の小暮社長のもとで、本庄発世界レベルの商品開発が今始まろうとしています。（RPN1月号）



IOC入居2年のエンサー(株)が商品開発に成功

エンサー(株)は日立金属OBの3名で組織される研究開発型企業。IOC本庄早稲田に入居して2年が経過し、研究開発を進めてきた圧電スピーカがついに完成しました。【写真右】

今までPZTチップとよばれる素材は、圧力を加えると発電する性質を利用し、主にガスライターなどに使用されてきました。エンサー(株)はこのPZTチップ数百個を特殊な技術で樹脂整形したスピーカの開発に成功しました。特に高音領

域にてその高い能力を発揮し、透明な音色を再現し、オーディオマニア向けのスピーカに活用予定です。また技術提供、特許実施権の販売等も視野に、本年4月よりモニター募集を開始します。（RPN3月号）



②プレ・インキュベーション活動

IOC本庄早稲田ベンチャーゾーン（V棟）入居者の契約満了（2006年12月）を控え、次期入居企業の探索を行う。また、ゼロから事業を立ち上げようとする起業家や新事業に取り組む企業なども積極的に支援し、IOC本庄早稲田ベンチャーゾーン入居候補者として育成すると共に、早稲田リサーチパークのインキュベーション機能の充実を図るためプレ・インキュベーションの立ち上げの検討を行っています。

(2) 企業支援・コーディネート活動

本庄地方拠点都市地域とその周辺広域エリアを対象として、早稲田大学等との連携に意欲を持つ企業ニーズの掘り起こしや商品開発等による新規事業化に向けて大学等の技術・研究シーズと結びつけることを目指すコーディネート活動を展開すると共に、総合相談、販路開拓支援、技術支援、専門家紹介等の企業支援活動を行っています。

(3) 新事業創出促進活動

本庄早稲田ワークショップ、経営セミナー等を開催し、本庄地方拠点都市地域とその周辺広域エリアにおける起業や企業の新事業立ち上げ・経営革新等を促進するための活動を行っています。

①本庄早稲田ワークショップ

IOC本庄早稲田V棟入居企業を含めた中小企業を対象に、経営に関連する身近なテーマを取り上げ、専門家による情報提供、会員相互の意見交換・情報交換を通じて各社が抱える諸問題の解決に繋がる実践的なワークショップをほぼ毎月1回開催しています。

『中小企業・ベンチャー企業のオリジナル商品開発』

①2005年4月21日(木)	売れるための仕組みづくり ～販売力の強化を目指して～
②2005年5月19日(木)	売れる新商品を企画開発する ～作ったものを売るのではなく、売れるものを作る！～
③2005年5月26日(木)	個別相談会
④2005年6月23日(木)	先駆けしたマーケティングの牽引力 ～四輪車普及国ブラジルでの未開拓二輪車市場から～
⑤2005年7月27日(水)	企業経営者のための情報検索
⑥2005年8月24日(水)	コダックの牙城に挑んだ富士フィルムの海外戦略
⑦2005年9月28日(水)	販路開拓・拡販のための営業のABC
⑧2005年10月19日(水)	市場を見据えた製品開発の進め方
⑨2005年11月22日(火)	営業マネージャーの基礎知識と部下の育成指導の基本
⑩2005年12月14日(水)	顧客志向の考え方と提案営業の手法



ワークショップの光景



ワークショップ後の交流会

『営業力強化のためのマネジメント』

①2006年1月24日(火)	目標設定と計画作りの基本
②2006年2月21日(火)	目標達成のマネジメント
③2006年3月23日(木)	モチベーションを高める営業マネージャーの役割

②経営セミナー

周辺広域エリアの企業を対象として、最前線で活躍するビジネスマンや専門家を招聘し、企業経営に直結するタイムリーな情報提供を行うセミナーを開催しています。

■「本庄早稲田経営セミナー」の開催

〔第1回『日本のエンタテインメント・ビジネスの未来』〕

日時：2005年9月8日(木) 14：00～17：00 場所：WRPCC

主催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構

後援：本庄商工会議所、深谷商工会議所、熊谷商工会議所、秩父商工会議所、伊勢崎商工会議所、高崎商工会議所、藤岡商工会議所、美里町商工会、児玉町商工会、神川町商工会、上里町商工会、岡部町商工会、早稲田大学



学生ベンチャー成功のポイントなど熱く語る

本庄早稲田・経営セミナー開催 ～びあ(株)取締役副会長が講演

9月8日(木)、びあ株式会社取締役副会長・林和男氏を講師として『本庄早稲田経営セミナー』を開催いたしました。テーマは「日本のエンタテインメント・ビジネスの未来」で、学生ベンチャーとして創業してから今日までの成功のポイント、これまでの早稲田大学との関わりと本庄キャンパスへの期待、ITを活用した先端システム開発と今後の経営戦略等について熱く語っていただいたあと、来場者からも活発に質疑応答が行われました。(RPN10月号)



林副会長（写真中央）と談笑するPFF出身学生

〔第2回『新会社法の中小企業向けポイント解説』〕

日時：2005年10月13日(木) 14：00～17：00 場所：WRPCC

主催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構、本庄国際リサーチパーク推進協議会

後援：本庄商工会議所、深谷商工会議所、熊谷商工会議所、秩父商工会議所、伊勢崎商工会議所、高崎商工会議所、藤岡商工会議所、美里町商工会、児玉町商工会、神川町商工会、上里町商工会、岡部町商工会、早稲田大学

■「IOC本庄早稲田シンポジウム」の開催

日時：2005年8月4日(木) 14：00～17：30

主催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構

後援：関東経済局、埼玉県、本庄市、早稲田大学、中小企業基盤整備機構関東支部



連携の状況や成果を具体的に披露 早稲田リサーチパークを活用して経営革新を進める 地域企業

「IOC 本庄早稲田シンポジウム」当日は、関東経済局産業企画部産業立地課の泉満博課長による講演「中小企業新事業活動促進法の活用について」に続いて、パネルディスカッション「産・学・公・地域連携と中小企業の経営革新について」が行われました。パネルディスカッションでは、早稲田リサーチパークをご活用いただき経営革新を進められている民間企業3社の経営者（㈱ウム・ヴェルト・ジャパン小柳社長、㈱坂本製作所坂本社長、賛光精機㈱清水社長（順不同））より、早稲田リサーチパークとの具体的な連携の状況やその成果についてお話しいただきました。（RPN8月号）



■「IOC 本庄早稲田オープンセミナー・事業承継勉強会」の開催

日時：2005年11月11日（金）・12月2日（金） 13：30～17：00 場所：WRPCC
主催：（財）本庄国際リサーチパーク研究推進機構



事業承継の問題に「気づき」を与える 事業承継勉強会を連続開催

11月11日（金）、12月2日（金）の二日間にわたり、「事業承継勉強会」を開催しました。「みなさん、自社の会社の株価をご存知でしょうか？上場企業の株価だけでなく、未上場の中小企業の株価も会社の業績によって変動しています。事業承継の際に株価を把握していないとトラブルの発生を招きます。さあ自社の株価を計算してみましょう。」（財津税理士）

「重要なことは代々創業であり、2代目、3代目も自らの代において商品開発や市場開拓を行うことを通して、新たに創業することが大切です。」（豊泉氏）

計画的に準備を行うことで経営面及び税金面において効率的な事業承継が可能になります。今回の勉強会は事業承継の問題に「気づき」を与える良い契機となり、参加企業から好評を得ることができました。（RPN12月号）

③その他

■「平成17年度補助金説明会」の開催

平成17年度に予定されている経済産業省、中小企業基盤整備機構、本庄国際リサーチパーク推進協議会の各種補助金について概要をまとめて説明し、その後は各企業にベストマッチな補助金をご提案する個別相談会を開催しました。

日時：2005年4月6日（水） 14：00～15：00 場所：WRPCC
主催：（財）本庄国際リサーチパーク研究推進機構

4 地域交流・人材育成事業

(1) 地域交流事業

早稲田リサーチパークや早稲田大学での活動を地域に浸透させるとともに、広く周辺地域の企業や市民に早稲田リサーチパークを拠点とした活動に参加・関与してもらうべく、各種の交流事業を実施しています。

①本庄早稲田リサーチパークフォーラム

本庄地方拠点都市地域に関わりのある産・学・公・地域の各界各層による幅広い交流活動を促進するために、本庄国際リサーチパーク推進協議会と連携し、大学・研究機関、企業、市民等の相互交流が図れる事業として、開催いたしました。

■「本庄早稲田リサーチパークフォーラム」の開催

日時：2006年2月8日(水) 10:00～17:45 場所：WRPCC

主催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構、本庄国際リサーチパーク推進協議会

後援：埼玉県、本庄市、美里町、神川町、上里町、深谷市、本庄商工会議所、美里町商工会、児玉町商工会、神川町商工会、上里町商工会、岡部町商工会、早稲田大学、ぴあ(株)

協力：早稲田大学大学院国際情報通信研究科、早稲田大学川口芸術学校



映画『タッチ』の犬童監督ら参加で大盛況！ 「映像」テーマにリサーチパークフォーラムを開催

◆一般映画ファンへ向けて広く情報発信

2月8日(水)に早稲田リサーチパーク内で、「日本のデジタル映像拠点を目指して」と銘打った〈本庄早稲田リサーチパークフォーラム〉を開催いたしました。

今年度で3回目の今回は、全体テーマを《映像》に絞り、企画段階から早稲田大学と提携関係にあるぴあ株式会社(矢内廣社長)に全面的に協力(後援)していただき、映像製作関係者だけでなく一般映画ファンへ向けて広く情報発信することを意図して企画・開催する初めての試みとなりました。

◆多数の映像を交え犬童・岡本両監督熱く語る

当日は、早稲田大学特命教授・篠田正浩映画監督や吉田信解本庄市長も来場され、参加者は100名を越える盛況振りで賑やかなフォーラムとなりました。

午前の部では、ぴあ株式会社との連携に基づき、PFF(ぴあフィルムフェスティバル)コンペディション部門入賞者の中から、2005年4月にGITS(国際情報通信研究科)へ入学した、日置珠子監督の『雨の日はしょうがない』と、佐々木紳監督『ライフ』(ともにGITS安藤紘平研究室)が上映されました。午後の部では、PFFでの入選を機に、多くの映像作品を手がけ、現在第一線の映画監督として活躍されている犬童一心監督(最近作は『タッチ』『メゾン・ド・ヒミコ』)と、映画監督岡本泰之氏のトークショーが、インタビューアーにPFFディレクター荒木啓子氏をお迎えして行われました。「自主映画から商業映画まで」と「映画制作の現場から見たデジタル革命」という二本立てのテーマで、トークに多数の映像を交え、熱く語っていただきました。(RPN2月号)



熱弁をふるう犬童監督(左端)と
荒木啓子氏(右端)

②早稲田リサーチパーク交流会

早稲田リサーチパーク内外の関係者がカジュアルな雰囲気の中で相互交流を図れるお祭りのイベントを企画・実施しています。



アジアからの学生を交え活発になる本庄キャンパス 国際情報通信研究科が入学式～本庄では3度目

9月22日(木)に開催された早稲田大学大学院国際情報通信研究科 (GITS) の9月入学式は、本庄キャンパスでは3度目の入学式。43名の入学者のうち38名がアジアからの留学生で、学生数も増え、本庄キャンパスもますます活発になってきました。

また、同日の夕方からは「新入生歓迎・交流パーティー」が1Fレストラン馬車道で開催されました。パーティーでは、松平恒和・国際情報通信研究センター (GITI) 客員教授率いるジャズバンドの生演奏が披露され、参加した新入生、在学学生、大学関係者等、出席者全員が文化交流と演奏を楽しみました。(RPN10月号)



なごやかな雰囲気で開催されたGITS「新入生歓迎・交流パーティー」の様子。吉田本庄市長などの参加も。

③大学－地域の各種交流イベント

本庄拠点都市地域及び周辺地域を対象として、早稲田大学と地域の相互交流を深め、地域へのより一層の浸透を図るための事業を適宜企画・実施しています。

■「環境保全講習会」の共催

日時：2005年5月28日(土) 13：00～16：30 場所：WRPCC

主催：NPO法人埼玉環境カウンセラー協会

共催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構



「環境保全」や「産官学連携」について活発な意見交換 埼玉県環境カウンセラー協会・早大・財団で コラボ企画開催

埼玉県環境カウンセラー協会主催の交流事業「環境負荷低減をはかり持続的発展に向けた産官学民による連携と取り組みについて」が身近な環境専門家である環境カウンセラー約50名と市民・行政関係約30名が出席し開催されました。

吉田徳久早稲田大学教授の講演、真下建設株式会社真下敏明副社長の産学連携事例紹介、環境カウンセラー・森林インストラクター神座侃大氏からの市民の手による環境保全事例紹介などが行われ、講演者と参加者の皆様に「環境保全」や「産官学連携」について活発な意見交換が繰り広げられました。(RPN6月号)

■「早稲田大学所蔵品展示会」の開催・後援

『江戸・明治幻景：早稲田大学図書館蔵古写真を展示』【写真下左】

日時：2005年6月25日(土)～7月10日(日) 場所：WRPCC

主催：早稲田大学

後援：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構

『芸能のすがた：本庄拠点所蔵資料、早稲田大学演劇博物館所蔵資料の展示と実演』【写真下右】

日時：2005年10月8日(土)～10月23日(日) 場所：WRPCC

主催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構、早稲田大学、

本庄地方拠点都市地域整備推進協議会、本庄国際リサーチパーク推進協議会



(2) 人材育成事業

①各種セミナー、講座等

企業等を対象として、起業家養成、経営関係、技術開発等をテーマとする「技術実践セミナー」などのセミナー・研修会を適宜開催しています。

また、早稲田大学、本庄国際リサーチパーク推進協議会等と連携し、市民向け講座「まちづくり大学」などの地域の人材育成に資する事業も展開しています。

■「技術実践セミナー」の開催

昨年に続き各回2日間の日程で、技術者育成を目的に技術実践セミナーを開催しました。初回は「電気・電子の実践研修」をテーマに、オームの法則や半導体内の電子の動きを中心に電気・電子の基礎を含む幅広い内容で実施。2回目は「リレーシーケンス実践研修」をテーマとして、リレー・タイマー・カウンタを用いた「リレーシーケンス回路作成」等を実習を交えて実施しました。

第1回「電気・電子の実践研修」

日時：2005年7月21日(木)・22日(金) 9:15～16:45 場所：WRPCC

第2回「リレーシーケンス実践研修」

日時：2005年8月25日(木)・26日(金) 9:15～16:45

■「まちづくり大学 2005」の企画・運営 [→特集4 (p.23)]

昨年度に続き、本庄国際リサーチパーク推進協議会の人材育成事業として、本財団が企画・運営を担当して実施しています。

今年度は、これまで以上に周辺各地の現地見学(児玉～神泉～本庄市街のまち歩き)を取り入れた独自のプログラム開発と、市民有志が積極的に参画した運営体制など内容を一新し、本庄地域に密着したまちづくり人材の育成・交流の場として定着を図りました。昨年度に続き、登録受講生は約45名。

▶▶ 「まちづくり大学 2005」が開講－市民自ら企画運営に参加

2005年9月17日(土)の午後、WRPCCの4階レクチャールームで「まちづくり大学2005」の開校式と第1回講義が行われました。開校式では、主催の本庄国際リサーチパーク推進協議会・増野武夫会長に続き、地元本庄市の吉田信解市長からもあいさつがありました。

この市民向け連続講座は、2006年2月まで計7回が行われます。[→下記カリキュラム参照]

本財団が担当する企画運営には、昨年度に実施した「〈環境共創〉まちづくり大学」の受講生・講師や「蔵めぐり・まち歩き」[→下記囲み参照]の参加者など、市民有志が積極的に参画しています。

特に今回は、本庄・児玉・神泉といった近隣のまちむらを実際に訪れて現地ワークショップを開くなど、これまでにない実践的なプログラムに期待が集まっています。(RPN10月号)

【全体スケジュール(カリキュラム)】

① 9月17日	開校式／「まちの歴史」講義(増田一裕講師)
② 10月15日	「建物・街並」講義(薩田英男講師)、「食と農、風土」講義(瀬山明講師)
③ 10月29日	現地見学・ワークショップ(1)「児玉まちめぐり」
④ 11月19日	現地見学・ワークショップ(2)「神泉まちめぐり」
⑤ 12月10日	現地見学・ワークショップ(3)「本庄まちめぐり」
⑥ 1月14日	グループワーキング「世間遺産セレクション」「まちづくりフリープラン」
⑦ 2月18日	オープン発表会／閉校式／交流フォーラム[本財団共催]



「本庄まちめぐり」
(旧養蚕農家の見学)



「児玉まちめぐり」(蔵構えと擬洋風が融合した建物に注目)

▶▶ 『メイキング・オブ・まちづくり大学 2005』を刊行

本財団では、上記の「まちづくり大学 2005」の終了後、その企画段階からの活動記録を一冊にまとめたカラー版小冊子『メイキング・オブ・まちづくり大学 2005』を刊行いた

しました。[→6 その他事業のうち(2)調査報告書等刊行事業の項に詳述]

トピックス TOPICS

専門家を交えた刺激的な語らい 「蔵めぐり・パート2」－市民有志が「運営委員会方式」で

梅雨空の6月11日(土)午後、「本庄『蔵めぐり・まち歩き』の集いーパート2」が前回の3月26日に続き好評のうちに開催されました。

前回中心となった市民有志グループが、個人参加の「運営委員会方式」で企画から運営までを実施(本財団も参加)。当日13:00に本庄市民プラザ前に集まった約40名の参加者は、旧中仙道周辺に多く残る古い土蔵や煉瓦造りの商店・工場等の近代化遺産を訪ねる街歩きを楽しみました。【写真右】

その後市民プラザに戻っての勉強会、夕刻からの「蔵の広場」での懇親会まで、遠方からの専門家も交えた刺激的な語らいの時を心ゆくまで楽しんでいました。(RPN7月号)



②小・中学生を対象とした学習支援プログラム

本庄国際リサーチパーク推進協議会、早稲田大学、早稲田大学本庄高等学院等と連携して、「夏休み／冬休みスーパーサイエンス教室」(科学実験教室)、「親子CG教室」(コンピュータグラフィックスの制作)、「トレーディングゲームプログラム」(国際経済の疑似体験プログラム)、など拠点地域内の小中学生を対象とした様々な体験型学習を実施しています。また、早稲田大学、早稲田大学本庄高等学院等と連携して小・中学校の総合学習支援にも取り組んでいます。

■「子どもインターネット教室」の共催【写真右】

日時：2005年7月25日(月)～8月5日(金)

場所：WRPCC

主催：子どもメディアフォーラム運営協議会

共催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構

後援：本庄市教育委員会



■「ビデオ創作教室」の共催

日時：2005年7月25日(月)～8月5日(金)

場所：本庄情報通信研究開発支援センター

主催：子どもメディアフォーラム運営協議会

共催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構

後援：本庄市教育委員会



■「トレーディングゲーム」の開催

日時：2005年8月8日(月)・9日(火)

場所：WRPCC

主催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構、

本庄国際リサーチパーク推進協議会

指導：株式会社ウィル・シード



トレーディングゲームで経済や社会の仕組みを体感 起業家教育プログラム開催

8月8日(月)、9日(火)の2日間にわたり、トレーディングゲームが開催され、拠点地域内の小学校5・6年生および中学生60名の参加がありました。トレーディングゲームとは、経済や社会の仕組みを体感できるシミュレーションゲームです。実際の社会に近い設定の中でビジネスの進め方や国際協力、異文化理解などを学んでいきます。また、ゲームを通じて自分自身の強みや弱みを発見するだけでなく、1チーム3名でゲームを進めるため社会性や人間関係の大切さにも気づいていきます。

この事業は株式会社ウィル・シードにより企画運営されています。経済産業省の企業家教育促進事業に採用され、平成14年度から約30,000名の小・中・高校生が体験しています。(RPN8月号)



■「夏休み親子クレイアニメ教室」の協力

日時：2005年8月22日(月)～24日(水)

場所：本庄情報通信開発支援センター

主催：本庄国際リサーチパーク推進協議会、本庄情報通信研究開発支援センター利用促進協議会

後援：本庄市教育委員会、美里町教育委員会、児玉町教育委員会、神川町教育委員会、神泉村教育委員会、上里町教育委員会、岡部町教育委員会

協力：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構、早稲田大学国際情報通信研究センター、本庄情報通信研究開発支援センター、(株)ビジネスサポート



■「夏休み親子スーパーサイエンス教室」の共催

日時：2005年8月25日(木)～27日(土)

場所：早稲田大学本庄高等学院

主催：早稲田大学本庄高等学院、(独)科学技術振興機構

共催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構



■「星空観察会」の協力

日時：2005年10月28日(金) 19:00～20:30

場所：WRPCC

主催：本庄市環境推進課

協力：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構



■「冬休み親子スーパーサイエンス教室」の協力

日時：2005年12月17日(土)

場所：早稲田大学本庄高等学院

主催：早稲田大学本庄高等学院、(独)科学技術振興機構

協力：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構



楽しくセンサーライトやロボット作成！ 夏休み親子スーパーサイエンス・ハイスクール開催

8月25日(木)～27日(土)の3日間、早稲田リサーチパークを会場に『夏休み親子スーパーサイエンス教室』を開催しました。本庄高等学院の教員が中心となり、電子工作教室“センサーライトをつくろう！”や“ロボットを作ろう”などの計6つのプログラムが実施され、JR東日本にも参加募集に協力頂き、埼玉県・群馬県内から約200名の小学生の親子が参加しました。(RPN9月号)



5 研究教育施設の管理運営事業

(1) IOC 本庄早稲田の管理運営

①賃貸業務

A、B棟各40室計80室について、独立行政法人中小企業基盤整備機構から賃借し、早稲田大学に再賃貸しています。

②管理業務

A、B、Vの全棟について、所有者であり、V棟を使用する独立行政法人中小企業基盤整備機構、A、B棟の使用者である早稲田大学から、清掃、警備、設備等の管理業務の委託を受け、株式会社早稲田大学ファシリティマネジメントに再委託しています。

③運営業務

経済産業省からの補助金および早稲田大学から委託を受けて、V棟のIM室にインキュベーションマネージャーを配置し、入居者支援をはじめ、起業家支援、棟内外の産学連携、研究開発支援、受付等庶務などの業務を行っています。

(2) 早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター (WRPCC) の管理運営及び教育・研究関連業務支援

①管理業務

建物全体の清掃、警備、設備等の管理業務について、早稲田大学から業務委託を受け、株式会社早稲田大学ファシリティマネジメントに再委託しています。

②運営業務

早稲田大学から委託を受けて、施設内の庶務、教室・機器等の貸出管理、施設運営の企画・実施、地域社会との連携・窓口業務、大学院・研究センター等業務支援などについて業務を行っています。



コミュニケーションセンターを利用して地域の団体・機関等が行った各種イベントの様子。

(3) 本庄ドミトリーの管理運営

早稲田大学から委託を受けて、本庄ドミトリーの入居者手続き、家賃等徴収、受付窓口等の運営業務及び建物全体の清掃、警備等の管理業務を行っています。

6 その他事業

(1) PR事業

- ①本財団のWebサイト（ホームページ）について、適切な情報提供・情報発信に資するよう適宜内容の更新・改訂を行っています。今年度は活動の実情に基づき全面的な改訂を行っています。



- ②本財団等によるリサーチパーク内での具体的な活動状況、各種イベントの開催情報等の提供を目的とするニューズレター「本庄早稲田・リサーチパークニュース」を編集・発刊しています（月1回15日発行予定）。
- ③マスメディア等への露出を図り、年間60本余の記事として財団及び早稲田リサーチパークの活動が紹介されました。
- ④本財団の事業紹介用パンフレットについて、必要に応じて随時追加・更新を行っています。
- ⑤本庄国際リサーチパークの見学者・視察者に対する効果的なプレゼンテーションを展開し、ブランドイメージを醸成して、産学連携の活性化や円滑な企業等誘致に繋げるよう努めています。

(2) 調査研究報告書等刊行事業

2004年度の事業活動等の状況を報告書（年報）としてとりまとめ、同年8月に刊行いたしました。地域企業や住民等を中心に一般に配布することにより、活動状況を広く周知するとともに活動成果を社会に還元するよう努めています。

また、研究会等の活動報告や受託事業報告書等についても、適宜刊行しております。

■『メイキング・オブ・まちづくり大学 2005』の刊行

市民向け連続講座・「まちづくり大学 2005」の活動記録を一冊にまとめた『メイキング・オブ・まちづくり大学 2005』を刊行いたしました。

この小冊子は、「まちづくり大学 2005」の企画・準備の段階から、注目の「まちめぐり」などを経て、最後を飾る交流フォーラムまでの全過程を、詳しく、またビジュアルに記録・再現しようとしたものです。【右写真は表紙】

『メイキング・オブ・まちづくり大学 2005』は、A4判・66ページ（全ページカラー）で価格は2100円（税込）。



(3) 賛助会員の募集活動

財団の財政基盤を安定させ、積極的な事業活動の推進を図るため、昨年度に引き続き、法人・団体の賛助会員の募集活動を積極的に推進しています。

[2005 年度事業活動の状況 (一覧)]

※ WRPCC=早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター

1 研究・教育支援事業

日時/場所	事業名	詳細
2005年10月19日(水) 10:30~17:00 (於) WRPCC	国際情報通信研究 公開発表会	主 催: 早稲田大学国際情報通信研究センター (GITI) ／早稲田大学大学院国際情報通信研究センター (GITS) 後 援: (財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構、 本庄商工会議所、(社)こだま青年会議所
2005年11月16日(水) (於) 本庄市民文化会館大ホール	野村万作・萬斎 狂言教室	主 催: 早稲田大学本庄高等学院
2005年11月21日(月) 13:00~17:30 (於) WRPCC	第3回本庄情報通信研究開発支援センター研究発表会	主 催: 本庄情報通信研究開発支援センター利用促進協議会 (独)情報通信研究機構 本庄情報通信研究開発支援センター 共 催: (財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構

2 産学公・地域連携事業

日時/場所	事業名	詳細
2005年5月11日(水) (於) 本庄市役所	早稲田大学と本庄市、「協働連携に関する基本協定書」に調印	
2005年6月20日(月)	サンデン(株)ー早稲田大学・環境総合研究センターが包括協定締結	
2005年7月20日(水) (於) WRPCC	地域水環境再生勉強会 [05年度第1回]「地域の共有資源としての水を考える」	講 師: 農林水産省関東農政局・神流川沿岸農業水利事業所 池田豊三所長 「神流川沿岸の水の歴史と国営事業の概要」
2005年8月22日(月) (於) WRPCC	本庄早稲田資源循環フォーラム [第1回研究交流会]	講 師: 早稲田大学理工学部教授・同環境総合研究センター 副所長 大和田秀二氏 「環境調和型リサイクルとその応用例」
2005年9月22日(木) (於) WRPCC	キャノン電子(株)と早稲田大学GITS・GITIが共同研究で協定調印式	
2005年11月1日(火)~6日(日) (於) 東京丸の内(丸ビル横)	東京ファーマーズマーケット2005	実行委員会委員長: 宮澤喜一元首相
2005年11月17日(木) (於) WRPCC	地域水環境再生勉強会 [05年度第2回]「本庄の地下水と湧き水について考える」	講 師: 埼玉県環境科学国際センター主任研究員 高橋基之氏 「埼玉県北部地域の水環境ー地下水・湧水とその水質を中心ー」
2005年11月28日(月) (於) 産学交流プラザ(彩の国8番館)	本庄早稲田資源循環フォーラム [第2回研究交流会]	後 援: 早稲田大学・環境総合研究センターと埼玉大学・地域共同研究センター 講 師: 埼玉県環境科学国際センター・廃棄物管理担当部長 小野雄策氏 「廃棄物問題の現況と資源循環型物流システムの構築ー廃棄物の質の管理と分離技術ー」
2005年12月27日(火) (於) 神泉村立神泉小学校訪問	沖縄県宜野湾市長田小学校が神泉村立神泉小学校訪問	共 催: 本庄情報通信研究開発支援センター利用促進協議会
2006年1月6日(土) (於) 元小山川と小山川(本庄市内)	藤田小学校との共同魚類調査	賛同・協力: 本庄市教育委員会
2006年2月2日(木) (於) 産学交流プラザ(彩の国8番館)	産業クラスター・ネットワークフォーラム	
2006年3月1日(水) (於) さいたま市文化センター	第1回都市系食品バイオマス資源化推進シンポジウム	共 催: 埼玉県農林総合研究センター 基調講演講師: 東京農業大学(北海道大学名誉教授)但野利秋教授 「都市系食品バイオマスの資源化と地域循環農業の展開方法」 パネルディスカッション司会: 埼玉大学 西山賢一教授

3 企業支援・インキュベーション事業

日時/場所	事業名	詳細
2005年4月6日(水) 14:00~15:00 (於) WRPCC	平成17年度補助金説明会	主 催: (財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構
2005年4月21日(木) 15:10~17:00 (於) WRPCC	10C本庄早稲田ワークショップ 『中小企業・ベンチャー企業のオリジナル商品開発』 第4回「売れるための仕組みづくりー販売力の強化を目指してー」	講 師: JMコンセプト 奥野直也氏

日時/場所	事業名	詳細
2005年5月19日(木) 15:10~17:00 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田ワークショップ 『中小企業・ベンチャー企業のオリジナル商品開発』 第5回『売れる新商品を企画開発する ～作ったものを売るのではなく、売れるものを作る!～』	講師: JMCコンセプト 奥野直哉氏
2005年5月26日(木) 10:00~17:00 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田ワークショップ 『中小企業・ベンチャー企業のオリジナル商品開発』 第6回『個別相談会』	講師: JMCコンセプト 奥野直哉氏
2005年6月23日(木) 15:10~17:00 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田ワークショップ 『中小企業・ベンチャー企業のオリジナル商品開発』 第7回『先駆けしたマーケティングの牽引力』 ～四輪車普及国ブラジルでの未開拓二輪車市場から～	講師: 株式会社本田技研研究所OB 菊池省三氏
2005年7月27日(水) 15:10~17:00 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田ワークショップ 『中小企業・ベンチャー企業のオリジナル商品開発』 第8回『企業経営者のための情報検索』	講師: 財団法人日本立地センター 主任研究員 林 聖子氏
2005年8月4日(木) 14:00~17:30 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田シンポジウム	主催: (財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構 後援: 関東経済局、埼玉県、本庄市、早稲田大学、中小企業基盤整備機構関東支部
2005年8月24日(水) 15:10~17:00 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田ワークショップ 『中小企業・ベンチャー企業のオリジナル商品開発』 第9回『コダックの牙城に挑んだ富士フィルムの海外戦略』	講師: 元富士フィルム株式会社 専務取締役 井上 修氏
2005年9月8日(木) 14:00~17:00 (於) WRPCC	本庄早稲田経営セミナー 第1回『日本のエンタテインメント・ビジネスの未来』	主催: (財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構 本庄国際リサーチパーク推進協議会 後援: 本庄商工会議所、深谷商工会議所、熊谷商工会議所、秩父商工会議所、伊勢崎商工会議所、高崎商工会議所、藤岡商工会議所、美里町商工会、児玉町商工会、神川町商工会、上里町商工会、岡部町商工会、早稲田大学
2005年9月28日(水) 15:10~17:00 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田ワークショップ 『中小企業・ベンチャー企業のオリジナル商品開発』 第10回『販路開拓・拡販の為に営業のABC』	講師: 大森日出太郎氏
2005年10月13日(木) 14:00~17:00 (於) WRPCC	本庄早稲田経営セミナー 第2回『新会社法の中小企業向けポイント解説』	主催: (財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構 本庄国際リサーチパーク推進協議会 後援: 本庄商工会議所、深谷商工会議所、熊谷商工会議所、秩父商工会議所、伊勢崎商工会議所、高崎商工会議所、藤岡商工会議所、美里町商工会、児玉町商工会、神川町商工会、上里町商工会、岡部町商工会、早稲田大学
2005年10月19日(水) 15:10~17:00 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田ワークショップ 『中小企業・ベンチャー企業のオリジナル商品開発』 第11回『市場を見据えた製品開発の進め方』	講師: 風間 誠氏
2005年11月11日(金)・ 12月2日(金) 13:30~17:00 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田オープンセミナー・事業承継勉強会	主催: (財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構 講師: 早稲田リバイタルパートナーズ株式会社代表取締役社長 豊泉光男氏 藤岡公認会計士税理士事務所 資産税部部長 税理士 財津良子氏
2005年11月22日(火) 15:10~17:00 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田ワークショップ 『中小企業・ベンチャー企業のオリジナル商品開発』 第12回『営業マネージャーの基礎知識と部下の育成指導の基本』	講師: (株)アクシス&パートナーズ・コンサルティング代表取締役 稲田裕司氏
2005年12月14日(水) 15:10~17:00 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田ワークショップ 『中小企業・ベンチャー企業のオリジナル商品開発』 第13回『顧客志向の考え方と提案営業の手法』	講師: (株)アクシス&パートナーズ・コンサルティング代表取締役 稲田裕司氏
2006年1月24日(火) 15:00~17:00 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田ワークショップ 『営業力強化のためのマネジメント』 第14回『目標設定と計画作りの基本』	講師: (株)アクシス&パートナーズ・コンサルティング代表取締役 稲田裕司氏
2006年2月21日(火) 15:00~17:00 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田ワークショップ 『営業力強化のためのマネジメント』 第15回『目標達成のマネジメント』	講師: (株)アクシス&パートナーズ・コンサルティング代表取締役 稲田裕司氏
2006年3月23日(木) 15:00~17:00 (於) WRPCC	IOC本庄早稲田ワークショップ 『営業力強化のためのマネジメント』 第16回『モチベーションを高める営業マネージャーの役割』	講師: (株)アクシス&パートナーズ・コンサルティング代表取締役 稲田裕司氏

4 地域交流・人材育成事業

日時/場所	事業名	詳細
2005年5月28日(土) 13:00~16:30 (於) WRPCC	環境保全講習会	主催: NPO法人埼玉環境カウンセラー協会 共催: (財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構
2005年6月11日(土) (於) 旧中仙道周辺	本庄『蔵めぐり・まち歩き』の集いーパート2	

日時／場所	事業名	詳細
2005年6月25日(土)～ 7月10日(日) (於) WRPCC	早稲田大学所蔵品展示会 『江戸・明治幻景：早稲田大学図書館蔵古写真を展示』	主 催：早稲田大学 後 援：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構
2005年7月21日(木)・ 22日(金) 9：15～16：45 (於) WRPCC	技術実践セミナー 第1回「電気・電子の実践研修」	講 師：財団産学連携コーディネーター 浦野政俊氏
2005年7月25日(月)～ 8月5日(金) (於) WRPCC	子どもインターネット教室	参加者：本庄拠点地域内の小学生 16名 主 催：子どもメディアフォーラム運営協議会 共 催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構 後 援：本庄市教育委員会
2005年7月25日(月)～ 8月5日(金) (於) 本庄情報通信研究開発支援センター	ビデオ創作教室	参加者：本庄拠点地域内の小学生 6名 主 催：子どもメディアフォーラム運営協議会 共 催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構 後 援：本庄市教育委員会
2005年8月8日(月)・ 9日(火) (於) WRPCC	トレーディングゲーム	参加者：本庄拠点地域内の小学5・6年生および中学生 約60名 主 催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構 本庄国際リサーチパーク推進協議会 指 導：株式会社ウィル・シード
2005年8月22日(月)～ 24日(水) (於) 本庄情報通信研究開発支援センター	夏休み親子クレイアニメ教室	参加者：周辺地域の小学生親子20組 主 催：本庄国際リサーチパーク推進協議会 本庄情報通信研究開発支援センター利用促進協議会 後 援：本庄市教育委員会、美里町教育委員会、児玉町教育委員会、神川町教育委員会、神泉村教育委員会、上里町教育委員会、岡部町教育委員会 協 力：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構、早稲田大学国際情報通信研究センター、本庄情報通信研究開発支援センター、(株)ビジネスサポート
2005年8月25日(木)・ 26日(金) 9：15～16：45	技術実践セミナー 第2回「リレーシーケンス実践研修」	講 師：財団産学連携コーディネーター 浦野政俊氏
2005年8月25日(木)～ 27日(土) (於) 早稲田大学本庄高等学院	夏休み親子スーパーサイエンス教室	参加者：小学生親子約100組 主 催：早稲田大学本庄高等学院、(独)科学技術振興機構 共 催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構
2005年9月17日(土) (於) WRPCC	市民向け連続講座「まちづくり大学 2005」第1回 開校式／「まちの歴史」講義	講 師：増田一裕氏
2005年9月22日(木)	早稲田大学大学院国際情報通信研究科(GITS)新入生歓迎・交流パーティー	
2005年10月8日(土)～ 10月23日(日) (於) WRPCC	早稲田大学所蔵品展示会 『芸能のすがた：本庄拠点所蔵資料、早稲田大学演劇博物館所蔵資料の展示と実演』	主 催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構、早稲田大学、本庄地方拠点都市地域整備推進協議会、本庄国際リサーチパーク推進協議会
2005年10月15日(土)	市民向け連続講座「まちづくり大学 2005」第2回 「建物・街並」講義 「食と農、風土」講義	講 師：薩田英男氏 講 師：瀬山 明氏
2005年10月28日(金) 19：00～20：30 (於) WRPCC	星空観察会	参加者：小学生親子18組 主 催：本庄市環境推進課 協 力：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構
2005年10月29日(土) (於) 児玉町	市民向け連続講座「まちづくり大学 2005」第3回 現地見学・ワークショップ(1)「児玉まちめぐり」	
2005年11月19日(土) (於) 神泉村	市民向け連続講座「まちづくり大学 2005」第4回 現地見学・ワークショップ(2)「神泉まちめぐり」	
2005年12月10日(土) (於) 本庄市	市民向け連続講座「まちづくり大学 2005」第5回 現地見学・ワークショップ(3)「本庄まちめぐり」	
2005年12月17日(土) (於) 早稲田大学本庄高等学院	冬休み親子スーパーサイエンス教室	参加者：周辺地域の親子 主催：早稲田大学本庄高等学院、(独)科学技術振興機構 協力：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構
2006年1月14日(土) (於) WRPCC	市民向け連続講座「まちづくり大学 2005」第6回 グループワーキング「世間遺産セレクション」「まちづくりフリープラン」	
2006年2月18日(土) (於) WRPCC	オープン発表会／閉校式／交流フォーラム〔本財団共催〕	
2006年2月8日(水) 10：00～17：45 (於) WRPCC	本庄早稲田リサーチパークフォーラム	主 催：(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構 本庄国際リサーチパーク推進協議会 後 援：埼玉県、本庄市、美里町、神川町、上里町、深谷市、本庄商工会議所、美里町商工会、児玉町商工会、神川町商工会、上里町商工会、岡部町商工会、早稲田大学、びあ株式会社 協 力：早稲田大学大学院国際情報通信研究科、早稲田大学川口芸術学校

III

財務諸表

2005年度 収支計算書

(2005年4月1日から2006年3月31日まで)

(単位：円)

科 目		予 算 額	決 算 額	差 異
I 収入の部				
1	会費収入	7,500,000	5,400,000	2,100,000
2	事業収入			
	業務受託収入	3,100,000	3,065,599	34,401
	事業参加費収入	500,000	467,000	33,000
	管理事業収入	281,880,725	281,889,591	△8,866
3	補助金等収入	63,350,000	61,761,637	1,588,363
4	雑収入	800,000	696,222	103,778
当期収入合計 (A)		357,130,725	353,280,049	3,850,676
前期繰越収支差額		24,687,261	42,291,434	△17,604,173
収入合計 (B)		381,817,986	395,571,483	△13,753,497

(単位：円)

科 目		予 算 額	決 算 額	差 異
Ⅱ 支出の部				
1	事業費	293,317,920	291,825,245	1,492,675
	(1) 研究教育支援事業	2,500,000	2,364,620	135,380
	(2) 産学公地域連携事業	1,500,000	1,374,192	125,808
	(3) 企業支援・インキュベーション事業	3,000,000	2,480,130	519,870
	(4) 地域交流・人材育成事業	5,600,000	6,390,852	△790,852
	(5) 報告書等刊行事業	2,500,000	2,466,240	33,760
	(6) 施設等管理運営事業	236,690,920	234,914,008	1,776,912
	(7) PR 事業	5,000,000	5,180,050	△180,050
	(8) 都市エリア産学官連携推進事業	36,527,000	36,655,153	△128,153
2	管理費	63,284,001	60,450,294	2,833,707
3	予備費	528,804	0	528,804
当期支出合計 (C)		357,130,725	352,275,539	4,855,186
当期収支差額 (A-C)		0	1,004,510	△1,004,510
次期繰越収支差額 (B-C)		24,687,261	43,295,944	△18,608,683

正味財産増減計算書

(2005年4月1日から2006年3月31日まで)

(単位：円)

科 目		金 額		
I 増加の部				
1	資産増加額			
	当期収支差額	1,004,510	1,004,510	
2	負債減少額	0	0	
増加額合計				1,004,510
II 減少の部				
1	資産減少額	0	0	
2	負債増加額	0	0	
減少額合計				0
当期正味財産増加額				1,004,510
前期繰越正味財産				443,727,239
期末正味財産合計				444,731,749

貸借対照表

(2006年3月31日現在)

(単位：円)

科 目		金 額		
I 資産の部				
1	流動資産			
	現金預金	31,697,051		
	未収金	40,146,107		
流動資産合計			71,843,158	
2	固定資産			
	基本財産			
	基本財産引当預金	391,000,000		
	基本財産合計	391,000,000		
	その他の固定資産			
	退職給与引当預金	0		
	その他の固定資産合計	0		
固定資産合計			391,000,000	
資産合計				462,843,158
II 負債の部				
1	流動負債			
	未払金	15,686,964		
	預り金	2,424,445		
流動負債合計			18,111,409	
2	固定負債			
	固定負債	0		
固定負債合計			0	
負債合計				18,111,409
III 正味財産の部				
正味財産				444,731,749
(うち基本金)				(391,000,000)
(うち当期正味財産減少額)				
負債および正味財産合計				462,843,158

財産目録

(2006年3月31日現在)

(単位：円)

科 目		金 額		
I 資産の部				
1	流動資産			
	現金預金			
	現金 手許有高	9,600		
	普通預金 埼玉りそな銀行本庄支店	31,687,451		
	未収金	40,146,107		
流動資産合計			71,843,158	
2	固定資産			
	(1) 基本財産			
	埼玉りそな銀行本庄支店定期預金	391,000,000		
	(2) その他の固定資産	0		
固定資産合計			391,000,000	
資産合計				462,843,158
II 負債の部				
1	流動負債			
	未払金	15,686,964		
	預り金	2,424,445		
流動負債合計			18,111,409	
2	固定負債			
	固定負債			
固定負債合計			0	
負債合計				18,111,409
正味財産				444,731,749

財団法人 本庄国際リサーチパーク研究推進機構 2005年度 年報

発行日 2006年8月31日
編集・発行 財団法人 本庄国際リサーチパーク研究推進機構
〒367-0035 埼玉県本庄市西富田大久保山1011-3
TEL：0495-24-7455 FAX：0495-24-7465
URL：http://www.howarp.or.jp

※無断転載を禁じます。



財団法人 本庄国際リサーチパーク研究推進機構

〒367-0035 埼玉県本庄市西富田大久保山 1011-3

TEL: 0495-24-7455 FAX: 0495-24-7465

URL: <http://www.howarp.or.jp>